

ブロック塀の診断カルテ

A. 基本性能の診断〔基本性能値〕

診 断 項 目	基 準 点	評 価 点
建築後の年数	10年未満	10 ①
	10以上、20年未満	8 ()
	20年以上	5
高さの増積み	なし	10 ②
	あり	0 ()
使用状況	標準・単独	10 ③
	土留め・外壁等を兼ねる	0 ()
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10 ④
	塀の下に擁壁あり	5 ()
塀の高さ	1. 2m以下	15 ⑤
	1. 2mを越え、2. 2m以下	10 ()
	2. 2mを越える	0
塀の厚さ	15cm以上	10 ⑥
	12cm	8 ()
	10cm	5
透かしブロック	なし	10 ⑦
	あり	5 ()
鉄筋	あり	10 ⑧
	なし	0 ()
	確認不能	0
控え壁・控え柱	あり	10 ⑨
	なし	5 ()
かさ木	あり	10 ⑩
	なし	5 ()
基本性能値(①～⑩までの評価点の合計)		A []

B. 壁体の外観診断〔外観係数〕

診 断 項 目	基 準 係 数	評 価 係 数
全体の傾き	なし	1.0 ⑪
	あり	0.7 ()
ひび割れ	なし	1.0 ⑫
	あり	0.7 ()
損 傷	なし	1.0 ⑬
	あり	0.7 ()
著しい汚れ	なし	1.0 ⑭
	あり	0.7 ()
外観係数(⑪～⑭の最小値)		B []

C. 壁体の耐力診断〔耐力係数〕

診 断 項 目	基 準 係 数	耐 力 係 数
ぐらつき*	動かない	1.0 C
	わずかに動く	0.8 []
	大きく動く	0.5

*1. 診断する場合は、両面に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

D. 保全状況の診断〔保全係数〕

診 断 項 目	基 準 係 数	保 全 係 数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	1.5 D
	なし	1.0 []

診 断 結 果 の 判 定

1. 総合評点(Q)を求めましょう。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline A \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline B \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline C \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline D \\ \hline \end{array}
 =
 \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評点(Q)} \\ \hline \\ \hline \end{array}$$

2. 総合評点(Q)から、診断結果を判定しましょう。



安全性の判定と今後の対応			
総合評点	判 定	今 後 の 対 応	
Q ≥ 70	安全である	3～5年後にまた診断して下さい。	
55 ≤ Q < 70	一応安全である	1年後にまた診断して下さい。	
40 ≤ Q < 55	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策等を講じて下さい。	
Q < 40	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去して下さい。	

※ 診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。